

## 東近江市若者の意識に関する調査

### 1 調査概要

#### (1) 調査期間

令和8年3月18日（水）から同年4月10日（金）まで

#### (2) 回答方法

インターネット回答又は調査票での回答

#### (3) 対象者

16歳から29歳までの市民の中から3,000人を無作為に抽出し案内を郵送  
（未到達9人）

### 2 回答者

497人（回答率16.6%）

※すべてインターネットでの回答

### 3 回答結果

次項以降のとおり

問1 あなたの年齢をお答えください。(令和8年3月1日現在)

項目	件数	割合
16歳～20歳	233件	36.6%
21歳～25歳	249件	29.0%
26歳～29歳	15件	33.2%
不明	6件	1.2%
合計	497件	100.0%

問2 あなたの性別をお答えください。

項目	件数	割合
1 男性	233件	46.9%
2 女性	249件	50.1%
3 未回答	15件	3.0%
合計	497件	100.0%

問3 あなたの結婚の状況をお答えください。

項目	件数	割合
1 結婚している(事実婚を含む)	91件	18.3%
2 結婚していない	406件	81.7%
合計	497件	100.0%

ポイント

- 「結婚していない」が圧倒的多数で、全体の81.7%を占めています。
- 「結婚している(事実婚を含む)」は91件(18.3%)にとどまっています。
- 回答者の約5人に1人が結婚している(事実婚含む)という結果です。

問4 あなたの家族構成をお答えください。(当てはまるものすべてを選択)

項目	選択件数	割合(497人中)
1 父	350件	70.4%
2 母	363件	73.0%
3 兄弟姉妹	309件	62.2%
4 祖父母	110件	22.1%
5 あなたの配偶者(事実婚を含む)	93件	18.7%

6 あなたの子供	57 件	11.5%
7 その他の親族	10 件	2.0%
8 友人・恋人	13 件	2.6%
9 その他（ホームステイをしている人等）	1 件	0.2%
10 同居している人はいない（単身世帯）	29 件	5.8%

#### ポイント

- 「母（73.0%）」「父（70.4%）」「兄弟姉妹（62.2%）」 と同居している割合が高く、実家などのファミリー層で暮らしている方が多い傾向が読み取れます。
- 「あなたの配偶者（18.7%）」は、問3の「結婚している（事実婚を含む）」の割合（18.3%）と概ね一致しており、配偶者と同居している方がほとんどであることがわかります。
- 「単身世帯」は29件（5.8%）となっており、一人暮らしをしている方は比較的少数です。

#### 問5 あなたの最終学歴又は現在の在学状況をお答えください。

項目	件数	割合
1 中学校	4 件	0.8%
2 高等学校	229 件	46.1%
3 専修学校・専門学校	39 件	7.8%
4 高等専門学校・短期大学	27 件	5.4%
5 大学・大学院	185 件	37.2%
6 中途退学	7 件	1.4%
7 その他	6 件	1.2%
合計	497 件	99.9% ※

（※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります）

#### ポイント

- 「高等学校」が229件（46.1%）で最も多く、次いで「大学・大学院」が185件（37.2%）となっており、この2つの区分で全体の8割以上を占めています。

#### 問6 あなたの現在の状況をお答えください。

項目	件数	割合
1 就業（正社員、正職員など）	212 件	42.7%
2 就業（パート、アルバイト、派遣・契約社員等）	52 件	10.5%

3 就業（自営）	7 件	1.4%
4 学生	206 件	41.4%
5 主婦・主夫	5 件	1.0%
6 無職	8 件	1.6%
7 その他	7 件	1.4%
合計	497 件	100.0%

#### ポイント

- ・ 「就業（正社員、正職員など）」が212件（42.7%）、「学生」が206件（41.4%）となっており、この2つの属性で回答者の約84%を占めています。
- ・ パート・アルバイト等を含めると、何らかの形で就業している方は合計271件（約54.5%）となります。

問7 あなたの暮らし向き（衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準）をお答えください。

項目	件数	割合
1 生活に余裕がある	70 件	14.1%
2 生活にやや余裕がある	124 件	24.9%
3 生活に余裕はないが苦しくはない	218 件	43.9%
4 生活がやや苦しい	69 件	13.9%
5 生活がとても苦しい	16 件	3.2%
合計	497 件	100.0%

#### ポイント

- ・ 「生活に余裕はないが苦しくはない」と回答された方が最も多く、全体の43.9%（218件）を占めています。
- ・ 「余裕がある」「やや余裕がある」を合わせた【余裕がある層】は39.0%（194件）です。
- ・ 一方、「やや苦しい」「とても苦しい」を合わせた【苦しい層】は17.1%（85件）という結果になりました。

問8 家賃や食費等の固定費を除き、趣味や娯楽、交際費等あなたが自由に使えるお金は1箇月当たりいくらか大まかにお答えください。

項目	件数	割合
1 5,000円未満	49 件	9.9%
2 5,000円以上10,000円未満	106 件	21.3%

3 10,000 円以上 30,000 円未満	157 件	31.6%
4 30,000 円以上	171 件	34.4%
5 自由に使えるお金はない	14 件	2.8%
合計	497 件	100.0%

#### ポイント

- 「30,000 円以上」と回答された方が最も多く、全体の 34.4% (171 件) を占めています。
- 次いで「10,000 円以上 30,000 円未満」が 31.6% (157 件) となっており、この 2 つの層 (10,000 円以上) を合わせると全体の 66.0% (約 3 分の 2) に達します。
- 一方で、「5,000 円未満 (9.9%)」や「自由に使えるお金はない (2.8%)」と回答された方も合計で 12.7% います。

#### 問 9 あなたは、親や家族等から愛されていると思いますか。

項目	件数	割合
1 とても思う	267 件	53.7%
2 そう思う	211 件	42.5%
3 どちらかといえば、そうは思わない	15 件	3.0%
4 思わない	4 件	0.8%
合計	497 件	100.0%

#### ポイント

- 「とても思う (53.7%)」と「そう思う (42.5%)」を合わせると、全体の 96.2% (478 件) に達し、圧倒的多数の方が肯定的な回答をしていることがわかります。
- 一方で、「どちらかといえば、そうは思わない」「思わない」といった否定的な回答は、合計してもわずか 3.8% (19 件) にとどまっています。

#### 問 10 あなたは、自分のことが好きですか。

項目	件数	割合
1 好きだ	160 件	32.2%
2 どちらかと言えば、好きだ	217 件	43.7%
3 どちらかといえば、好きではない	82 件	16.5%
4 好きではない	38 件	7.6%
合計	497 件	100.0%

#### ポイント

- 「どちらかといえば、好きだ (43.7%)」 と回答した方が最も多い結果となりました。
- 「好きだ (32.2%)」 と合わせると、肯定的な回答 (好き派) が全体の 75.9% (377 件) となり、約 4 分の 3 を占めています。
- 一方、「どちらかといえば、好きではない」「好きではない」といった否定的な回答 (好きではない派) は合わせて 24.1% (120 件) となっています。

---

#### 問 11 あなたは、自分は頑張れば目標を達成できると思いますか。

項目	件数	割合
1 とても思う	136 件	27.4%
2 そう思う	256 件	51.5%
3 どちらかといえば、思わない	83 件	16.7%
4 思わない	22 件	4.4%
合計	497 件	100.0%

#### ポイント

- 「そう思う (51.5%)」 と回答した方が最も多く、過半数を占めています。
- 「とても思う (27.4%)」 と合わせると、肯定的な回答は全体の 78.9% (392 件) となり、約 8 割に達しています。
- 一方、「どちらかといえば、思わない」「思わない」といった否定的な回答 (思わない派) は合わせて 21.1% (105 件) という結果になりました。

---

#### 問 12 あなたの悩みや話を真剣に聞いてくれる家族や信頼できる人はいますか。

項目	件数	割合
1 いる	450 件	90.5%
2 いない	47 件	9.5%
合計	497 件	100.0%

#### ポイント

- 「いる」と回答された方が 450 件 (90.5%) にのぼり、圧倒的多数を占めています。
- 「いない」と回答された方はわずか 9.5% (47 件) にとどまりました。

---

#### 問 13 (問 12 で「1 いる」と答えた人にお聞きします。) その相手は、誰ですか。 (当てはまるものすべてを選択)

項目	選択件数	割合（497人中）
1 家族、親族	397 件	79.9%
2 友人、知人	372 件	74.8%
4 職場（アルバイト先）の人	71 件	14.3%
5 学校の先生	36 件	7.2%
6 オンライン上の友人、知人	14 件	2.8%
8 医療関係者（カウンセリング含む）	11 件	2.2%
7 公的な機関の職員	7 件	1.4%
3 地域の人（近所の人、町内会の知人）	6 件	1.2%
9 その他	4 件	0.8%

#### ポイント

- ・ 相談できる人がいる（450人）のうち、ほとんどの方が「**家族、親族（79.9%）**」または「**友人、知人（74.8%）**」を頼りにしていることがわかります。
- ・ 次いで「**職場（アルバイト先）の人（14.3%）**」や「**学校の先生（7.2%）**」といった、日々の生活・所属コミュニティで身近に接する人が選ばれています。
- ・ 一方で、行政や専門家である「**医療関係者（2.2%）**」「**公的な機関の職員（1.4%）**」に相談できると答えた方は少数にとどまっており、公的・専門的な支援窓口がまだ身近な相談先として認識されにくい（あるいはそこまで深刻な相談を想定していない）状況がうかがえます。

---

#### 問14 あなたは、現在どのような悩みがありますか。（当てはまるものすべてを選択）

項目	選択件数	割合（497人中）
1 友人、知人関係	64 件	12.9%
2 親子関係	29 件	5.8%
3 恋愛、結婚	109 件	21.9%
4 勉強、学習、学校生活	106 件	21.3%
5 進路、就職	147 件	29.6%
6 仕事	171 件	34.4%
7 自分の健康、体、性	101 件	20.3%
8 家族の介護、健康	26 件	5.2%
9 自分の子供、家族	46 件	9.3%

10 将来	247 件	49.7%
11 食事	20 件	4.0%
12 お金	231 件	46.5%
13 その他	9 件	1.8%
14 悩みはない	48 件	9.7%

#### ポイント

- 「将来（49.7%）」と「お金（46.5%）」について悩んでいる方が非常に多く、ほぼ半数の方がこれらを選択しています。
- 次いで「仕事（34.4%）」や「進路、就職（29.6%）」といったキャリア・ライフステージに関する悩みが上位に入っています。
- 一方で、「悩みはない」と回答した方はわずか9.7%（48人）にとどまっており、9割以上の方が何らかの悩みを抱えて生活している実態が浮き彫りになっています。

問 15 （問 14 で悩み等があると答えた人にお聞きします。）その悩みは、あなたの生活にどれくらい影響を与えていますか。

※割合は全回答者（497人）をベースに算出しています。

項目	件数	割合
1 強く影響している	128 件	25.8%
2 少し影響している	225 件	45.3%
3 ほとんど影響していない	89 件	17.9%
4 まったく影響していない	7 件	1.4%
(参考) 無回答 (悩みはない)	48 件	9.7%
合計	497 件	100.1% ※

(※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります)

#### ポイント

- 何らかの悩みを抱えている方（449人）のうち、「少し影響している」と「強く影響している」を合わせると353人にのぼります。
- これは悩みを抱える方全体の約78.6%に相当し、多くの方が「自分の抱える悩みが、現在の生活や将来に影響を及ぼしている」と実感していることがわかります。
- 一方で、「まったく影響していない」と答えた方はわずか7件（全体の実質1%強）にとどまりました。

問 16 あなたは、普段日常的に家族の世話や介助をしていますか。

項目	件数	割合
1 している	54 件	10.9%
2 していない	443 件	89.1%
合計	497 件	100.0%

ポイント

- 「していない」と回答された方が 443 件（89.1%）と圧倒的多数を占める結果となりました。
- 「している」と回答された方は約 1 割（10.9%）にとどまっています。

問 17 （問 16 で「1 している」と答えた人にお聞きします。）あなたから見て誰の世話や介助ですか。（当てはまるものすべてを選択）

項目	選択件数	割合（55 人中）
6 あなたの子供	22 件	40.0%
5 あなたの配偶者（事実婚を含む）	18 件	32.7%
2 母	14 件	25.5%
1 父	13 件	23.6%
3 兄弟姉妹	9 件	16.4%
4 祖父母	8 件	14.5%
8 その他	2 件	3.6%

ポイント

- 家族の世話やケアをしている相手として、「あなたの子供（40.0%）」と「あなたの配偶者（32.7%）」が多く選ばれています。子育てや配偶者のサポートを主軸としている方が多いことがわかります。
- 次いで「母（25.5%）」と「父（23.6%）」が続いており、親の介護やケアを担っている層も一定数います。
- 複数回答の組み合わせを見ると、「父」と「母」をセットで選んでいる方や、「配偶者」と「子供」をセットで選んでいる方が目立ちます。家族全体を支える役割を担っている様子がうかがえます。

問 18 （問 16 で「1 している」と答えた人にお聞きします。）あなたが普段行っている世話や介助の内容で当てはまるものはどれですか。（当てはまるものすべてを選択）

項目	選択件数	割合（55 人中）
----	------	-----------

2 家事全般（料理、洗濯、掃除等）	33 件	60.0%
6 子供の世話	23 件	41.8%
4 病院への付き添いや送迎	13 件	23.6%
1 病気や障害のある家族の世話	9 件	16.4%
3 兄弟姉妹の世話（保育所等への送迎等）	5 件	9.1%
5 通訳	4 件	7.3%
7 その他	4 件	7.3%

#### ポイント

- 「家事全般（60.0%）」を担っている方が最も多く、回答者の6割にのびります。日々の生活を根底から支える役割を担っていることがうかがえます。
- 次いで「子供の世話（41.8%）」が多く、問17で「配偶者」や「子供」のケアをしていると答えた方が、具体的な内容として選択していると考えられます。
- 一方で、「病院への付き添いや送迎（23.6%）」や「病気や障害のある家族の世話（16.4%）」といった、より直接的・身体的なケアを担っている方も一定数いらっしゃいます。
- 「通訳」を選択されている方が4名いらっしゃるのも、多文化共生など地域特有の背景（外国ルーツのご家庭など）があるのかもしれない、注目すべきポイントです。

問19 （問16で「1している」と答えた人にお聞きします。）あなたは、週に何日くらい家族の世話や介助をしていますか。

項目	件数	割合（55人中）
1 毎日	33 件	60.0%
2 週に4～6日	3 件	5.5%
3 週に1～3日	10 件	18.2%
4 月に数回	8 件	14.5%
5 その他	1 件	1.8%
合計	55 件	100.0%

#### ポイント

- 家族の世話やケアをしている方のうち、「毎日（60.0%）」と回答した方が最も多く、6割を占めています。
- 「週に4～6日（5.5%）」と合わせると、約3分の2（65.5%）の方が、ほぼ毎日

常的・継続的にケアの役割を担っていることがわかります。

- 一方、「週に1～3日」や「月に数回」という方は合わせて約3割（32.7%）です。こちらは、病院への送迎や、別居している親族のサポートなど、ある程度決まったタイミングでのケアを担っている層だと推測されます。

問20（問16で「1している」と答えた人にお聞きします。）家族の世話をすることで、学校生活や仕事にどのような影響が出ていますか。

項目	件数	割合（55人中）
7 特に影響はない	23件	41.8%
1 学校や仕事を休むことがある	12件	21.8%
4 余暇の時間を取れない	11件	20.0%
3 友達と遊ぶ時間がない	3件	5.5%
2 部活動や趣味の活動に参加できない	2件	3.6%
5 勉強の時間が取れない	2件	3.6%
8 その他	2件	3.6%
合計	55件	99.9% ※

（※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります）

#### ポイント

- 「特に影響はない（41.8%）」と回答した方が最も多く、ケアを担いつつも自身の生活とのバランスをうまく保っている（あるいは折り合いをつけている）層が一定数いることがわかります。
- 一方で、残りの約6割（58.2%）の方は何らかの負の影響を感じています。中でも「学校や仕事を休むことがある（21.8%）」と「余暇の時間を取れない（20.0%）」の割合が高い点が非常に重要です。
- とくに「学校や仕事を休むことがある」という回答が5人に1人以上の割合で存在することは、学習機会の損失や就業への支障（欠席・欠勤・離職のリスク）に直結していることがうかがえます。

問21（問16で「1している」と答えた人にお聞きします。）家族の世話や介助で困ったときに助けてくれる人がいますか。

項目	件数	割合（55人中）
1 いる	45件	81.8%
2 いない	10件	18.2%
合計	55件	100.0%

## ポイント

- 家族のケアを担っている方のうち、「いる (81.8%)」 と回答した方が 8 割を超え、多数を占めています。
- 一方で、「いない (18.2%)」 と回答した方が 10 人 (約 5 人に 1 人) います。
- この「いない」と答えた約 2 割の方は、**ケアの負担を一人で抱え込んでいる「孤立したケアラー」** である可能性が高く、行政や地域からの重点的なサポートや声かけが必要な層と言えます。

問 22 あなたは、心から落ち着いて、自分らしく居られる居場所がありますか。

項目	件数	割合
1 ある	473 件	95.2%
2 ない	24 件	4.8%
合計	497 件	100.0%

## ポイント

- 「ある」と回答された方が 473 件 (95.2%) にのぼり、圧倒的多数を占める結果となりました。
- 「ない」と回答された方はわずか 4.8% (24 件) にとどまっています。

問 23 (問 22 で「1 ある」と答えた人にお聞きします。) 次の選択肢の中で、あなたが心から落ち着いて自分らしく居られる居場所はどこですか。(当てはまるものすべてを選択)

項目	選択件数	割合 (458 人中)
1 自宅 (自分の部屋、リビング等)	442 件	96.5%
5 オンライン上のコミュニティ、SNS	52 件	11.4%
2 学校 (教室、図書室、保健室等)	43 件	9.4%
7 カフェ、居酒屋等行きつけのお店	33 件	7.2%
4 塾、習い事、部活動、趣味の活動の場	29 件	6.3%
8 その他	21 件	4.6%
6 職場	16 件	3.5%
3 地域の子ども食堂や居場所、児童館センター、つどいの広場	4 件	0.9%

## ポイント

- 「自宅 (自分の部屋、リビング等)」 を居場所と感じている方が 442 件

(96.5%) と圧倒的多数を占めています。多くの方にとって、まずは家庭が基本的な安心の基盤となっていることがわかります。

- 次いで「オンライン上のコミュニティ、SNS (11.4%)」が多く、物理的な場所だけでなく、デジタル空間も重要な居場所として機能している現代の傾向が表れています。
- その一方で、行政や地域が提供する「地域の子ども食堂や居場所、児童館センター等 (0.9%)」を居場所と感じている方はごくわずかにとどまっています。

問 24 (問 22 で「2 ない」と答えた人にお聞きします。) 居場所がない理由は次のうちどれですか。(当てはまるものすべてを選択)

項目	選択件数	割合 (24 人中)
1 どのように居場所を見つけたらよいかわからない	10 件	41.7%
7 自分の存在意義や役割を感じられる居場所がない	7 件	29.2%
8 自分を理解してくれる人がいる居場所がない	7 件	29.2%
3 金銭的な理由で、行きたい場所に行けない	6 件	25.0%
6 利用できる時間と利用したい時間が合わない	5 件	20.8%
2 行きたいけれど漠然とした不安や抵抗感がある	4 件	16.7%
4 行くきっかけがない	4 件	16.7%
9 自分には必要ない	3 件	12.5%
10 その他	2 件	8.3%

#### ポイント

- 居場所がないと感じている方のうち、最も多い理由は「どのように居場所を見つけたらよいかわからない (41.7%)」でした。約 4 割の方が情報不足やアプローチの方法に悩んでおり、行政や支援団体からの情報発信・アウトリーチが求められていることがわかります。
- 次いで「自分の存在意義や役割を感じられる居場所がない (29.2%)」、「自分を理解してくれる人がいる居場所がない (29.2%)」が並んでいます。単に「過ごせる空間」があるだけではなく、心理的な安全性や自己肯定感を得られる「質」が重要視されていることがうかがえます。
- また、「金銭的な理由で、行きたい場所に行けない (25.0%)」や「利用できる時間と利用したい時間が合わない (20.8%)」といった、物理的・経済的なハードルを感じている層も一定数います。

問 25 あなたの 10 年後について明るい希望を持っていますか。

項目	件数	割合
1 持っている	99 件	19.9%
2 どちらかといえば、持っている	206 件	41.4%
3 どちらかといえば、持っていない	131 件	26.4%
4 持っていない	61 件	12.3%
合計	497 件	100.0%

ポイント

- 「持っている」派（1+2）が合計 305 件（61.4%）となり、全体の約 6 割を占めました。
- 一方で、「持っていない」派（3+4）も合計 192 件（38.6%）と約 4 割にのぼり、意見が分かれる結果となっています。

問 26 あなたは、自分の 10 年後のライフプラン等について、イメージしたことはありますか。

項目	件数	割合
1 ある	312 件	62.8%
2 ない	185 件	37.2%
合計	497 件	100.0%

ポイント

- 「ある」と回答された方が 312 件（62.8%）となり、全体の約 6 割強を占めました。
- 一方で、「ない」と回答された方も 185 件（37.2%） いらっしやりに、およそ 3 人に 1 人以上の割合となっています。

問 27 （問 3 で「2 結婚していない」と答えた人にお聞きします。）一生を通じて考えた場合、結婚に対する考えは、次のうちどれですか。

項目	件数	割合（363 人中）
1 いずれは結婚したい	276 件	76.0%
2 結婚するつもりはない	87 件	24.0%
合計	363 件	100.0%

ポイント

- 未婚の回答者のうち、「いずれは結婚したい（76.0%）」と回答した方が 4 分の 3 以上を占め、多くの方が将来的な結婚意欲を持っていることがわかります。

- 一方で、「結婚するつもりはない（24.0%）」と回答した方も約4人に1人の割合でいます。
- 近年、全国的にも若者の非婚化・晩婚化が進んでいますが、今回のデータでも「結婚を希望しない層」が一定数いることが明確に表れています。

問28 （問27で「1いずれは結婚したい」と答えた人にお聞きします。）いずれ結婚するために必要なサポートは次のうちどれですか。（当てはまるものすべてを選択）

項目	選択件数	割合（276人中）
9 自然な出会いで相手を見つけたいから必要ない	124 件	44.9%
3 共通の趣味等を通じた交流イベント（料理、スポーツ、キャンプ）	90 件	32.6%
1 職場や企業内での出会いの創出・支援の取組	74 件	26.8%
7 マッチングアプリ	60 件	21.7%
8 既に結婚を決めている人がいるから必要ない	43 件	15.6%
2 自治体や信頼できる団体が主催する婚活イベント	37 件	13.4%
5 婚活の悩みや進め方について、専門家や経験者に気軽に相談できる窓口	33 件	12.0%
4 婚活サポーターによる個別の紹介や引き合わせ	27 件	9.8%
6 ライフプランニングに関する情報提供	20 件	7.2%
10 その他	11 件	4.0%
(参考) 無回答（対象外など）	221 件	-

#### ポイント

- 結婚意欲がある方のうち、最も多かったのは「自然な出会いで相手を見つけたいから必要ない（44.9%）」という回答でした。約半数の方が、行政等による直接的な「婚活支援」を求めている（またはハードルを感じている）ことがわかります。
- 一方で、支援策として最も人気が高かったのは「共通の趣味等を通じた交流イベント（32.6%）」と「職場や企業内での出会いの創出（26.8%）」でした。「婚活」と銘打ったイベントよりも、自然な形で人と交流できる場や、日常の延長線上での出会いが好まれている明確な傾向が出ています。
- 「マッチングアプリ（21.7%）」も一定の支持を集めており、手軽な出会いの手段として定着している様子がうかがえます。

- すでに結婚を決めているお相手がいる「順調な層」も約 15%いらっしゃいます。

問 29 （問 27 で「2 結婚するつもりはない」と答えた人にお聞きします。）それは、なぜですか。（当てはまるものすべてを選択）

項目	選択件数	割合（86 人中）
1 結婚する必要性を感じない	40 件	46.5%
4 趣味や娯楽を楽しみたい	37 件	43.0%
5 自由さや気楽さを失いたくない	37 件	43.0%
7 人とうまく付き合えない	37 件	43.0%
12 結婚に良いイメージがない	29 件	33.7%
8 結婚後の人間関係に不安がある	26 件	30.2%
6 経済的に余裕がない	23 件	26.7%
11 人と一緒に住むことが負担に感じる	21 件	24.4%
2 結婚しなくてもパートナーがいればよい	18 件	20.9%
10 家族に対する責任を負担に感じる	16 件	18.6%
3 仕事（学業）に打ち込みたい	8 件	9.3%
14 その他	8 件	9.3%
9 一人でも安定した生活を送れる	7 件	8.1%
13 特に理由はない	3 件	3.5%

#### ポイント

- 最も多い理由は「結婚する必要性を感じない（46.5%）」でした。結婚という制度そのものに対する価値観が多様化していることが表れています。
- 注目すべきは、第 2 位（43.0%）に全く異なるベクトルの理由が 3 つ並んでいる点です。
  - **【自己充足型】** 「趣味や娯楽を楽しみたい」「自由さや気楽さを失いたくない」といった、自分のライフスタイルや時間を優先したいポジティブな理由。
  - **【対人不安型】** 「人とうまく付き合えない」という、コミュニケーションへの苦手意識からくるネガティブな理由。
- また、「結婚後の人間関係に不安（30.2%）」が「経済的に余裕がない（26.7%）」を上回っています。「お金がないから結婚できない」という経済的要因よりも、「他者と生活や関係性を築くことの心理的ハードル」の方が結婚へのストッパーになっている層が多いことが読み取れます。

問 30 あなたは、子供を持つことをどのように考えますか。(当てはまるものすべてを選択)

項目	選択件数	割合 (497 人中)
2 子供がいると生活が楽しく豊かになる	268 件	53.9%
12 経済的な負担が増える	178 件	35.8%
13 身体的・精神的な負担が増える	142 件	28.6%
11 自分の自由な時間が制約される	115 件	23.1%
1 子供は将来の社会の担い手になる	107 件	21.5%
6 好きな人の子供を持ちたいから、子供を持つ	102 件	20.5%
3 子供は夫婦関係を安定させる	74 件	14.9%
10 自分の子孫を残すことができる	64 件	12.9%
4 子供は老後の支えになる	61 件	12.3%
8 子供を持つことは自然なことである	45 件	9.1%
7 配偶者や親等周囲が望むから、子供を持つ	31 件	6.2%
9 自分の家の家名を残すことができる	22 件	4.4%
5 子供を持つことで周囲から認められる	19 件	3.8%
14 その他	16 件	3.2%

#### ポイント

- 最も多かったのは「子供がいると生活が楽しく豊かになる (53.9%)」でした。過半数の方が、子供の存在に対してポジティブな価値を見出していることがわかります。
- しかし非常に特徴的なのは、第2位～第4位を「経済的な負担が増える (35.8%)」、「身体的・精神的な負担が増える (28.6%)」、「自分の自由な時間が制約される (23.1%)」といった「ネガティブな現実的負担」が占めている点です。
- 一方で、「子供は老後の支えになる (12.3%)」や「自分の家の家名を残す (4.4%)」といった、かつての伝統的な家族観・子ども観は相対的に順位が低くなっており、現代の価値観の変化が明確に表れています。

#### 【考察】

「子どもがいる生活の豊かさ」は感じて（または想像して）いるものの、それ以上に「お金」「体力・メンタル」「時間」という三大コストが重くのしかかっている実態が浮き彫りになりました。問 29 の「結婚を希望しない理由」とも強くリンクする

結果です。

経済支援だけでなく、育児の物理的・心理的負担をどう軽減していくかが、少子化対策の最大の鍵になることがうかがえます。

---

問 31 学校や行政等、あなたの生活に影響を与える機関に対して、あなたの意見を伝える機会がありますか。

項目	件数	割合
1 ある	192 件	38.6%
2 ない	305 件	61.4%
合計	497 件	100.0%

ポイント

- 「ない」と回答された方が 305 件 (61.4%) となり、全体の約 6 割を占めています。
- 一方で、「ある」と回答された方は 192 件 (38.6%) と、約 4 割弱という結果になりました。

---

問 32 あなたは、東近江市の政策に若者の考えや意見がどの程度反映されていると思いますか。

項目	件数	割合
1 かなり反映されている	10 件	2.0%
2 ある程度反映されている	134 件	27.0%
3 あまり反映されていない	248 件	49.9%
4 ほとんど反映されていない	105 件	21.1%
合計	497 件	100.0%

ポイント

- 「あまり反映されていない (49.9%)」 と 「ほとんど反映されていない (21.1%)」 を合わせた 「反映されていない」派が合計 353 件 (71.0%) となり、全体の 7 割を超える結果となりました。
- 一方で、「反映されている」派 (1 + 2) は合計 144 件 (29.0%) にとどまっており、「かなり反映されている」と言い切れる方はわずか 2.0% (10 人) しかいません。

---

問 33 どのような方法であれば、東近江市にあなたの意見を伝えやすいと思いますか。

項目	件数	割合
1 LINE、インスタグラムなどの SNS	212 件	42.7%
5 アンケート	185 件	37.2%
2 オンライン	50 件	10.1%
6 対面	22 件	4.4%
3 YouTube 等の動画	11 件	2.2%
4 手紙（Eメール）	9 件	1.8%
7 その他	8 件	1.6%
合計	497 件	100.0%

#### ポイント

- 最も多かったのは「LINE、インスタグラムなどの SNS（42.7%）」、次いで「アンケート（37.2%）」となりました。この2つで全体の約8割（79.9%）を占めています。
- 「オンライン（10.1%）」や「対面（4.4%）」といったリアルタイムなコミュニケーションよりも、自分のペースで気軽に参加できる「SNS」や「アンケート」のニーズが圧倒的に高いことがわかります。
- 一方で、従来型の「手紙（Eメール）」は1.8%にとどまっており、意見聴取の手法を若者や現代のライフスタイルに合わせてアップデートしていく必要性が如実に表れています。
- 前問（問32）で「若者の声が反映されていない」と感じている人が7割を超えていたことを踏まえると、「SNSやアンケートを活用した、気軽にハードルの低い意見収集の仕組みづくり」が、政治・行政への参加意識を高めるための第一歩になると考えられます。

問34 このアンケートの感想や東近江市に望むことがありましたらお答えください。

#### 1 公共交通とインフラ整備（最も多くの意見が集中）

若者の生活の足となる交通機関や、日常の安全性に関する不満・要望が多数寄せられています。

- **近江鉄道とバス**
  - 「料金が高く、本数が少ない」「終電が早い」「通学時間帯の増便をしてほしい」
  - 「近江鉄道と近江バスの市民割を検討してほしい」
  - 「ちょこっとバスの利便性向上、ネットでの分かりやすい時刻表案内」
- **道路・インフラ**

- 「夜の街灯を増やしてほしい」「歩道や自転車専用レーンの整備」
- 「雪の日の市道の除雪を早くしてほしい」

## 2 まちづくり・商業施設・居場所づくり

「遊ぶ場所がない」「買い物が不便」という声が多く、地域間の発展のバランスにも意見が出ています。

- **施設の誘致**
  - 「ユニクロ、ニトリ、スタバ、サイゼリヤなどを誘致してほしい」
  - 「イオンモールのような大型ショッピング施設や、テーマパークが欲しい」
- **地域バランス**
  - 「八日市ばかり発展している。新快速が停まる能登川駅周辺をもっと活性化してほしい」
  - 「八日市駅周辺に活気がない。寄り道したくなる駅を目指すべき」
- **居場所づくり**
  - 「学生がテスト勉強や交流できるようなスペースが欲しい」
  - 「中学生や若者が大人に邪魔されずに遊べる公園や、全天候型の施設が欲しい」

## 3 子育て支援と教育

金銭的な負担軽減や、働きながら子育てをするハードルを低くしてほしいという意見です。

- **費用の無償化・補助**
  - 「医療費控除を大学生まで引き上げてほしい」
  - 「給食費の無償化」「保育園での『おむつ無償化（持ち込み不要）』の導入」
  - 「1歳以降の自宅保育への支援や、習い事の割引制度など」
- **環境整備**
  - 「待機児童をなくしてほしい。学童の充実」
  - 「不妊治療の完全無料化」「女性特有の病気の診察クーポン適用拡大」

## 4. 税金・物価高・経済的ゆとり

税負担や物価高に対する悲鳴や、若者が将来に希望を持てるような仕組みづくりの要望です。

- 「物価が上がっているのに住民税や保険料が重く、将来に不安を感じる」
- 「給料が少ない中、高い税金を納めている現役世代（中間層）への支援が薄

い」

- 「若者や30代以下の夫婦が定住・結婚したくなるような補助金や給付金が欲しい」

## 5. 行政の仕組み・多様性・その他

市役所の利便性や、情報発信のあり方、外国人住民との関わりについての意見です。

- **行政サービス**
  - 「平日は17時までに行けないため、土日開庁や商業施設での窓口対応をしてほしい」
  - 「用途別の窓口ガイドをWeb等で分かりやすくしてほしい」
- **アンケートや若者の声の反映**
  - 「『意見を集める』だけでなく『どう反映したか、なぜ採用しないか』を可視化しないと、ただのガス抜きになり若者の政治離れは止まらない」
- **多文化共生（※外国語での回答があった）**
  - インドネシア語：「東近江市は美しく、人も親切で働くことができ感謝しています。もっと特別なイベントを開いてほしい」
  - ポルトガル語：「東近江市が提携している、日本語とポルトガル語のパソコン教室はありますか？」
  - 日本語での意見：「外国人が増えて治安に不安がある」という声がある一方で、「外国人労働者にも公平に目を向け、支援してほしい」という声もありました。